

## 關東地方に於ける地震活動の短期統計的研究

所員 今 村 明 恒  
囑託員 保 田 柱 二

*On Some Seismic Zones of the Kwantô District  
as Revealed by Means of a Short  
Period Statistics<sup>1)</sup>*

By

**Akitune IMAMURA and Chuji YASUDA**

(Abstract)

In studying the distribution of earthquakes, which took place in the Kwantô district during 1914-1921, the late Prof. Omori pointed out four distinct seismic zones or areas which may be assumed to exist there; namely, the Bôsô peninsula, the Kinu-gawa basin, the Sagami district (including the Sagami Bay) and the sea-bottom off the coast of the provinces of Hitati and Iwaki.<sup>2)</sup> (Fig. 1.) But his statistics was, on one hand, based on observations made in an epoch of duration too short for the purpose of revealing the seismic zones in general, while, on the other hand, the number of earthquakes taken into consideration was too small and the location of the epicentres rather inaccurate, so that it was hopeless to discover any special character of each zone on that basis.

The present authors started the seismic triangulation of the same district at the beginning of the last year and were successful in locating 245 shocks (57 felt and 188 unfelt), which took place during the subsequent 9 months within the circular area of 160 km. radius with Tokyo as its centre, whereas Prof. Omori located there only 152 epicentres from his 8 years observation. (Fig. 2-6, Tab. I-III.) This success is to be attributed, first, to the addition of the seismic stations such as Kamakura, Kiyosumi, etc. (Fig. 6), and, secondly, the introduction of our new portable tromometer,<sup>3)</sup> which is available in measuring the earth's movement from 1 mm. to 1 micron in amplitude and from 0.1 sec. to 4 or 5 sec. in period.

1) Full note of the paper published in the Proc. Imp. Aca., 3, No. 2.

2) F. Omori: Seismological Notes of the Imp. Earthq. Inv. Comm., No. 2, §15 and Fig. 2.

3) Bull. Earthq. Research Inst., Tokyo Imp. Univ., I, pp. 7-26, (Fig. 1-3).

Let us now describe some remarkable characters of the seismic zones as revealed by means of this statistics. The most conspicuous feature may be a completion of cycle or epoch of minor activity in the Tama seismic zone (Fig. 4-6). It became rather active in January about the middle point of the zone: the activity migrated a little eastwards in February, but was less active in March (Fig. 4). Similar movement was repeated during the subsequent three months (Fig. 5), but in July the activity was revived with augmented energy in the western part and at last it culminated on Aug. 3 about the middle point of the zone causing slight damages in Yokohama and Tokyo. Afterwards, more or less after-shocks were experienced for a few days, but finally the whole zone became quiet (Fig. 6).

Another conspicuous feature is found in the seismic zones along the drainage basin of the Kinu-gawa. Possibly there may exist two seismic zones which run parallel to each other in their southeastern part but diverge in the other part, one running northwards and the other northwestwards. As seen from each figure, the cycle of their minor activity is usually completed within a few months.

So far we have pointed out the three different seismic zones, of which the southernmost corresponds to the Tama fault.<sup>1)</sup> As regards the other two, we have at present no such structural identities; the place is so deeply covered with soil that its subterranean feature has hitherto been unknown.

故大森博士は大正三年より同十年まで八年の間に於て、關東地方に感じた地震の震原分布を調査し、之れによりて凡そ四ヶ所の起震地域を認められた (第一圖大森博士調査東京地方有感地震分布、大正三年乃至同十年)(震災豫防調査會觀測錄第二號第十五條及び第二圖參照)。即ち其地域は第一房總半島、第二鬼怒川流域、第三相模灣を含める相模地方、第四常磐沖である。博士が此調査に採用せられた地震回数ハ百九十九に及んで居るが、此中には稍々隔つた場處に發生したるものまで含まれて居るので、若し東京を中心とし、半徑百六十軒の圓を畫くときは、其圓内に含まれる震原の數ハ百五十二箇となるのである。右の様な調査ハ當該地方に於ける地震活動の一般的概念を得るには大切な事件であつて、此目的の爲めには更に長期に亘りて統計を進める必要がある。現に博士も認められた如く僅に八年間の統計に於ては、東京及び其四近の地方の活動狀態が全く表はされて居ないからである。尙ほ博士の調査ハ、東京帝國大學地震學教室の觀測を基とし之に銚子及び水戸測候所の觀測を加へて震原推定に資したものであるが、器械の

1) N. Yamasaki: Jour. Fac. Sc. Tokyo Imp. Univ., II. 2.

精密さと観測網の目の粗なる點に於て多少の憾みがある。推定せられた震原の中には實際との誤差四五里に及ぶものがあるであらう。且つ採用せられた地震が有感程度以上のみであるが爲め、其回数が非常に少なく、之れからして地震活動の地方的特徴、若し出來得るならば、表面土壤下に隠された起震帯でも搜索し様とするには不適當であつたのである。

我々の本調査は此處に最後に述べた目的の爲めに豫備的に行つたものである。此爲めに我々が新たに採つた手段は地震観測網を密にすること、感覺なき微震までも拾取ることであつた。第一の手段の爲めには第六圖に示した通り、先づ神奈川縣下鎌倉と千葉縣下清澄とに観測設備を行つたのである、清澄は本大學演習林が其處にあるが爲め、其の構内に極めて簡単な観測小屋を設けたに過ぎないが鎌倉は豫ねて山階宮から此目的の爲めに下賜せられて居た地所に、雨潤會から寄贈せられた費用を以て、稍々完全に近き観測所が立てられたのである。此等の観測所、特に後者の如きは、本報告の如き豫期せられたものゝみならず、既に發表せられた關東大地震の分析的調査の如き豫期せられなかつたものまで副産物として收穫せられたのであつて、其効力の偉大なことを思ひ、此機會を利用して關係の方々に對し感謝の意を表したいのである。(観測點位置については第一表参照)

次に第二の手段として採つたのは観測器械として我々の新案に成る十四年式簡單微動計を選択したことである。此器械の詳細は當所彙報第一號に述べてあるが、此器械の特徴種々ある中で、震原推定に有効なるが如きは其第一に數ふべきものであらう。結局此器械の利用によりて最大振幅 0.002 耗(二ミクロン)位の近距離地震、言換ふれば、有感地震最小限度の五十分一程度のものまでも網羅せられる様になり、従て大森博士八年間百五十二回の地震調査に比較して、僅々九ヶ月間に二百四十五回の多數に上り、正に二十倍の成績を挙げ得たと言はなくてはならぬ。而も観測網の密となつた關係上、震原推定の誤差は遙に小さくなり、凡そ以前の五分の一に減却せられたであらう。第二表及第三表は即ち今回得られた観測結果を示すものであるが、先般自分が口述報告したものに多少増補してある。

此等の表に網羅した地震を地圖に盛込むに當つて、全部之を一圖に記入すると大森博士の得られた概念の外に、東京並に其周圍にも震原が相當に數多く分布されることが氣附かれる。第二圖は有感地震だけの分布を示し、第三圖は有感並に無感地震全部の分布を示すものである。何れにしても關係地方に於ける地震活動

の概況だけは之れにても想像し得られないことはないけれども、前に注意した様な地方的特徴とも稱すべきものは明瞭に表はされて居ない。それで期間を更に短かく刻んで每一月間の分布を畫き、更に便宜の爲めに連續三月間を一圖に纏めて見た。第四圖は大正十五年一月乃至三月の毎月分布を示し、第五、六圖も次々の三月間に於ける毎月分布を示すものであるが、尙ほ過去の沿革を參照する爲めに、後の二圖には大正十五年一月以來のものが加へてある。

此等の地震分布状態によりて、相模地方又は房總半島に於ける地震活動の特徴を見出すことは困難であるが、鬼怒川流域並に東京附近特に南方多摩川流域に於けるものには注意すべき事項がある。

第四圖により鬼怒川流域には第六圖に示した様な二條の起震帯が見え、而も其の活動が三月間に略ぼ一順したかの如き觀がある。さうして此状態は次々の三月間に益々明瞭になり、特に東北側一派は七月に至りて銚子沖にまで伸びた様な觀を呈して居る。

東京附近に於ては、略ぼ之を貫いて北西から南東へ走る一線が在るらしく見えるが、東京灣の北東沿岸に沿ふて起る地震には其記象に著しき特徴が存在し、他のものと容易に區別し得られる。但し統計に取つた九月間にては小活動が一順し終らないらしく、地震回数が比較的に少い。

多摩川地震帯は今回統計に取つた九月間に於て活動状態が最も明瞭に表はされたものである。即ち羽田附近を中心として一月から二月まで活動次第に東漸したものの、三月は單に無感地震を同地域に起したに止まり、四五月に於てはそれが同じ順序に盛返されて六月には再び稍々静まり、七月に於ては活動が西方に伸び、遂に八月三日に於て中央部たる羽田附近に夫の強震を起したのであるが、此絶頂が通り越されると地震数が急に減退し、茲に此地震帯の活動の一段落を告げたことになる。

以上は短期統計によりて想像せられた東京四近の或る地震帯の模索に過ぎないのであるが、此豫備的調査によりても、幾分の收穫はあつた様に思ふ。若し此觀測網の東部と西部とを更に密にしたらば、一層精確な結果が擧げられさうに思はれる。三崎臨海實驗所構内には昨大正十五年十月から觀測を開始し、秩父演習林構内にては本年六月から觀測を開始した。又近く千葉方面に一點を加へたい希望を有して居る。

斯く観測網を密にすると共に、観測器械の倍率を更に大きくすることによりて一層微細な地震までも網羅し得る様にする事は此種の研究を更に有効に導くものであらうと考へる。但し此は我々の観測網の第三次の整頓として暫時保留して置く。

序を以て、統計期間内に観測した二三の稍著しき地震に就いて細説を試みる。  
(The result of observation of some remarkable earthquakes.)

### 一 大正十五年四月十八日の地震

No. 1. The earthquake of April 18, 1926.

東京本郷観測 Tokyo observation (Fig. 7) 發震時午後三時五十四分三十三秒、初期微動繼續時間五・五秒主要動は最初の十五秒間著しく、戸障子を動搖せしめたが、三十秒を経て全く緩振動となり、初發より約十分で鎮靜した。

#### 水平動観測

初期微動——初動は〇・一七秒間に、四みくろん(以下みと略記する)南へ、一〇み西へ動いたから、其方位は南五十五度西(地震計位置の修正を加へ)となる。初期微動は二段に分たれる、初めの一・四秒間は振動小さく、其平均振幅(2a)は、南北動二四み、東西動二〇みで、〇・一七秒、〇・三五秒、〇・八八秒等の週期を示して居る。一・四秒の終りに、一・五秒の週期を有する振動が現はれ、其第一動は一〇み南、一四〇み西、第二動は一五〇み北、一九〇み東である。此様式の振動は初期微動の終りまで續き、其上に週期〇・二六秒、〇・三五秒、〇・六秒、平均振幅、南北動一三六み、東西動一〇〇みなる急振動が重なつて居る。

主要動——主要動の初めに最大動が現はれて居る、南北動、第一動三八〇み北第二動四八〇み南で、其週期は〇・八八秒である、東西動、第一動五四〇み東、第二動五七〇み西で、其週期は一・一五秒である。次の十秒間では南北動は〇・二四秒週期の振動が最も著しく。其平均振幅は三〇〇みである、東西動は〇・二二秒週期のもの著しく、其平均振幅は三四〇みである。

#### 上下動観測

上下動は三六〇みの著しい下方動で始まつて居る、次の振動は其振幅を減じ、凡そ九〇みから一四〇み位の間を往來して居る。振動の週期は、初期微動では、主に〇・二七秒、〇・五三秒、〇・八秒、一・一秒、二・三秒程度のものが現はれ、主

要動では〇・二七秒、〇・五六秒、一・一秒、三・七秒程度のものが尤もよく現はれて居る。

鎌倉由比濱観測 Kamakura observation 初期微動繼續時間五秒、主要動は初めの十三秒間著しく次第に減衰して、初發より約十分で鎮靜した。

#### 水平動観測

初期微動——初動は比較的緩慢であつて、一・二秒間に、三六み南へ、三み西へ動いたから、其方位は南六度西となる。南北動、東西動共に二・四秒週期の緩なる振動が現はれ、其上に週期〇・〇八秒、〇・一七秒、〇・五一秒、〇・四三秒最大振幅南北動七二み、東西動七〇みなる急振動が重なつて居る。

主要動——東西動、初めに二・三秒週期の緩なる振動がある、其第一動五八〇み西、第二動一〇三み東であつて、引續き十三秒間は振動尤も著しく、週期〇・六秒、平均振幅七六〇みで、其上に〇・一一秒、〇・三四秒、一・五秒週期の波が重なつて居る。南北動、初めに振幅一五〇み北の振動が現はれ次第に振幅を増し、二・五秒の後、最大動一五八〇み(週期一・五秒)が現はれた。夫より約九秒の間は振動著しく、其週期〇・五秒、平均振幅五二〇みである。

#### 上下動観測

上下動は八〇みの明瞭な上方動で始まり、振動頗る著しく、主要動になつてから、猶十五秒間續き、それから次第に緩となる。主なる週期は、初期微動では、〇・五秒、〇・九五秒、二・四秒等であつて、最大振幅は一〇〇みである。主要動では、〇・九五秒、二・四秒等であつて、最大振幅は二五〇みである。

清澄観測 Kiyosumi observation 初期微動繼續時間十秒、主要動繼續時間二十秒、總繼續時間約十分。震原までの距離遠ければ、振動は比較的緩で且單純である。

#### 水平動観測

初期微動——初めの一・三秒間には、週期〇・六五秒なる極めて微小な振動が現はれ、續て一・九秒、三・五秒週期のものが現はれた、そして其上に〇・一九秒、〇・三秒等の急振動が重なつて居る。此等急振動の平均振幅は、南北動、東西動共に一〇みであつて、緩振動の振幅は三〇みである。

主要動——南北動、初めの一・九秒間に五〇み北、一八〇み南の往復振動が現はれ、引續き三・八秒間に、最大動——二七〇み北、二四〇み南——が現はれた。續

て振動は猶一層緩となり、其上に $0.19$ 秒、 $0.37$ 秒、 $0.56$ 秒等の急振動が重なつて居る。東西動、初めの $0.9$ 秒間に $90$ み東の振動が現はれ、引續き $8$ 秒間に二つの大なる往復振動が現はれた、其第一動 $396$ み西、第二動 $560$ み東、第三動 $490$ み西、第四動 $290$ み東である。此等の緩振動上には $0.19$ 秒、 $0.47$ 秒、 $0.94$ 秒等の振動が重なつて居る。

震原 以上三ヶ所に於ける観測の結果を綜合して見ると、震原は東京より南五十五度西の方で、約二十七軒の距離にある川和附近に當り、深さは約二十九軒と出て来る。此結果は筑波、銚子等に於ける観測とも調和する。

## 二 大正十五年四月二十七日の地震

### No. 2. The earthquake of April 27, 1927.

東京本郷観測 Tokyo observation (Fig. 8) 發震時午後十一時十七分二十三秒、初期微動繼續時間 $8.6$ 秒、主要動繼續時間二十五秒、總繼續時間約五分。

#### 水平動観測

初期微動——初動、二み南、一み東、方位南三十九度東。初期微動は二段に分たれる、初めの $1.4$ 秒間は四つの微小なる振動があり、其平均振幅は、南北動二み、東西動四みで、其上に $0.1$ 秒週期の波が重なつて居る。次の部分では南北動に於ては全體を通じて週期 $0.52$ 秒、平均振幅四八みの振動が現はれ、其上に $0.1$ 秒、 $0.2$ 秒週期のものが重なつて居る。東西動、初めの部分には $0.6$ 秒週期、平均振幅二〇み、次の部分に於ては $0.8$ 秒週期、平均振幅三二みの振動が現はれ、其上に $0.1$ 秒、 $0.2$ 秒、 $0.4$ 秒週期のものが重なつて居る、此等の急振動の振幅は八乃至一六みである。

主要動——初めの $0.8$ 秒間に、南北動では第一動 $70$ み、第二動 $212$ みの二往復振動が現はれ、同時に東西動では $386$ みの一往復振動が現はれて居る。次の十秒間は振動急で且著しく、主な週期は $0.5$ 秒であつて、其最大振幅は南北動で一八〇み、東西動で二六〇みである。

上下動観測 初めの $1.6$ 秒間は振動微小であつて、其初動は七みの下方動である。夫より急に振幅を増し（第一動 $20$ み上、第二動 $30$ み下、週期 $0.5$ 秒）、九秒の後最大動一一〇みとなる。爾後二十秒間振動著しく、主なる週期は $0.5$ 秒、 $0.8$ 秒、 $1.1$ 秒、 $1.7$ 秒等である。

鎌倉由比濱觀測 Kamakura observation 初期微動繼續時間九・七秒、主要動繼續時間十五秒、總繼續時間五分。

#### 水平動觀測

初期微動——初動は〇・三秒間に四み南へ、六み西へ動いたから、其方位は南五十七度西となる。初期微動の主なる振動の週期は〇・五秒であつて、其最大振幅は、南北動で四二み、東西動で四四みである、其上に〇・一四秒、〇・一六秒、〇・三二秒週期の波が重なつて居る。

主要動——主要動は比較的緩な振動で始まつて居る。一・三秒の後最大動となり、一・八秒間尤も著しい。今順次の振動を列擧すれば次の通りである。

波動番號	1	2	3	4	5	6	週期 (平均)
南北動(み)	44 N	192 S	174 N	150 S	160 N	120 S	0.43 s
東西動(み)	104 W	72 E	32 W	42 E	76 W	80 E	0.43 s

爾後南北動は七〇み以下に減じたが、東西動は猶十秒間は著しく、其平均振幅一〇〇みである。週期。振動の週期は南北東西動共殆ど同じであつて、其主なるものは〇・二秒、〇・三秒、〇・五秒、〇・八秒等である。

#### 上下動觀測

初動は五〇みの上方動、第二動は六〇みの下方動であつて、其週期は〇・七二秒である。夫より振幅少しく減じて、主要動となり、再び次第に増して、最大振幅一〇〇みとなる(初發より十二秒後)。主なる振動の週期は〇・三六秒、〇・七二秒一・四秒等である。

清澄觀測 Kiyosumi observation 初期微動繼續時間十秒、主要動最強部繼續時間十秒、總繼續時間十分。

#### 水平動觀測

初期微動——初めの〇・三五秒間に、南北動は初めに一み北へ、次に四み南へ動いたが東西動は初めに極めて僅に西へ、次に二み東へ動いた。次の〇・五二秒間に、南北動は八み北へ、次で八み南へ動き、東西動は四み西へ、次で四み東へ動いた。之からして初動の方位を決めると、南二十九度東となつた。初期微動に於て著しき振動は週期〇・五二秒のであつて、其平均振幅は南北、東西動共に八み



である、其上に〇・〇八秒、〇・一七秒等の急振動が重なつて居る。猶南北動に於て二・三秒、東西動に於て二・六秒週期の緩な振動が現はれて居る。

主要動——初めの〇・八七秒間に、南北動は四八み北、九六み南なる一往復振動が現はれ、東西動は一〇〇み西、一〇四み東、四〇み西、六〇み東なる二往復振動が現はれて居る。南北動では次の四秒間が振動尤も著しく、〇・四三秒、〇・八七秒、一・七四秒等の週期が現はれて居る。東西動では七秒間が振動尤も著しく、〇・三五秒、〇・六秒、一・七秒等の週期が現はれて居る。

震原 以上三ヶ所の観測の結果によつて見ると、震原は東京から南三十九度東の方、二十五軒の距離に當り、東京灣の中部らしく、深さは約五十軒に出て来る。

### 三 大正十五年五月一日の地震

#### No. 3. The earthquake of May 1, 1927.

東京本郷観測 Tokyo observation (Fig. 9) 發震時午前二時三十六分十八秒、初期微動繼續時間八・六秒、主要動最強部繼續時間十五秒、總繼續時間約六分。

#### 水 平 動 観 測

初期微動——初動は〇・二秒間に六み北へ、一〇み西へ動いたから、其方位は北七十三度西となる。初期微動は判然と二段に分たれる。初めの一・六秒間は振動微で急である、其最大振幅は南北動で四〇み、東西動で二〇みで、〇・一秒、〇・四秒、〇・六秒等の週期を示して居る。一・六秒の終りで振幅が急に大きくなり、南北動で一二〇み、東西動で八〇みとなる。此部分に於ける週期は、南北動では主に〇・六秒であつて、一・〇秒、二・六秒の緩な振動が加はつて居る。東西動では主に〇・四秒であつて、其上に〇・二秒のものが重なつて居る。

主要動——主要動に入りてから振幅急に大きくなり、三・五秒の間尤も著しい、今其順次の振動を擧げれば次の様になる。

波 動 番 號	1	2	3	4	5	6	7	8	9
南 北 動 (み)	320 S	360 N	440 S	470 N	310 S	650 N (13 s 後)	512 S	190 N	250 S
東 西 動 (み)	190 E	446 W	390 E	344 W	460 E (0.9s 後)	424 W	390 E	396 W	402 E

波動番號	10	11	12	13	14	15	16	週期(平均)
南北動(み)	270 N	349 S	462 N	440 S	410 N	180 S	150 N	0.6 s
東西動(み)	214 W	180 E	410 W	390 E	310 W	210 E	160 W	0.6 s

次の十五秒間に現はれた振動の振幅は、南北動で平均二八〇み、東西動で平均二二〇みである。

#### 上下動観測

上下動は二〇〇みの著しい上方動で始まる、第二動四〇み下、第三動一五〇み上で、次第に振幅を減じ、主要動の始めでは、一〇〇みとなる。週期は主に〇・六秒であつて、其上に細微動が重なつて居る。

**鎌倉由比濱観測** Kamakura observation 初期微動継続時間十秒九、主要動最強部継続時間十五秒、總継続時間約六分。

#### 水平動観測

初期微動——初動は〇・二秒間に五み南へ、七み西へ動いたから其方位は南五十五度西となる。初期微動は主に〇・四秒週期の振動であつて、其最大振幅は南北、東西動で共に四〇みである。

主要動——初めの〇・四秒間に、南北動では二四み北へ、次に一四み南へ動いた、同時に東西動では三二み西へ、六み東へ、四四み西に動いた。續て最大動が現はれた、南北動では一七〇みで週振は〇・四秒である、東西動では一六〇みで週期は〇・八秒である。次の十秒間では、南北動は主に〇・六秒週期の振動であり、其平均振幅は一〇〇みで、其上に〇・二秒、〇・四秒、〇・八秒、一・二秒等のものが重なつて居る、東西動は主要週期一・〇秒、平均振幅一二〇みで、其上に〇・二秒、〇・四秒、〇・五秒、〇・八秒週期の波が重なつて居る。

**清澄観測** Kiyosumi observation 初期微動継続時間十秒、主要動最強部継続時間十五秒、總継続時間六分。

#### 水平動観測

初期微動——初めの〇・四七秒間に、南北動では初めに二み北へ、次に六み南へ動いた、東西動では初めに西へ、次に東へ動いた痕跡を示すのみであるから、初動の方位は殆ど北であつて、僅かに西に向つて居る。初期微動に於ける主なる週期

は南北動では  $0.19$  秒、 $0.38$  秒、 $0.57$  秒、 $0.95$  秒等であつて、 $0.57$  秒尤も多く、其最大振幅は一〇みである、東西動では  $0.19$  秒、 $0.38$  秒、 $0.57$  秒、 $0.95$  秒等であつて、 $0.38$  秒尤も多く、其最大振幅は一六みである。

主要動——南北動では初めの  $0.19$  秒間に四〇み南に動き、次の  $0.57$  秒間に一七〇み北へ、一五六み南へ動き、次の四・七秒間には  $0.76$  秒週期の六つの振動が現はれて居る、其振幅は殆ど相等しく平均九四みである。主な週期は  $0.3$  秒、 $0.57$  秒、 $0.75$  秒、 $0.95$  秒等であつて、三・三秒、四・七秒等の緩なものも現はれて居る。

東西動では初めに最大動が現はれ、其振幅一七〇み、週期  $0.57$  秒である、續て振幅一二〇み、週期  $0.95$  秒の一往復振動が現はれ、次の三・八秒間には四つの相等しき週期の振動が現はれて居るが、其振幅は著しく減少して居る。主な週期は  $0.19$  秒、 $0.57$  秒、 $0.95$  秒等である。

震原 以上観測の結果を綜合して見ると、震原は東京から南七十三度東の方約三十五軒の距離にある稻毛沿岸で、深さは約五十軒と出て来る。

#### 四 大正十五年八月三日の強震

No. 4. The earthquake of Aug. 3, 1927.

東京本郷観測 Tokyo observation (Fig. 10) 發震時午後六時二十六分二十二秒、初期微動繼續時間 七・六 秒、主要動最強部繼續時間三十秒、總繼續時間約三十分。

此地震は大正十三年一月十五日以來の強震であつて、振動頗る急激に、初期微動の間著しき上下動を感じた。主要動に入ると直ちに最大動となり、猶三十秒間は人軀に感ずることが著しかつた。最大振幅二八・三軒、週期一・六秒で、最大加速度は毎秒毎秒二一八軒に達して居る。

##### 水平動観測

初期微動——初動は  $0.19$  秒間に六六み南へ、一〇み西へ動いたから、其方位は南五度東(地震計位置の修正を加へ)となる。南北動では初めの一・三秒間は振動比較的小さく、其平均振幅二五〇み、週期  $0.95$  秒であつて、其上に  $0.16$  秒、 $0.32$  秒週期の波が重なつて居る、次に三・一五秒週期を有する二つの緩振動が現はれ其上に  $0.32$  秒、 $0.65$  秒、一・一 秒、一・三秒週期の波が重なつ

て居り、其平均振幅は一・二耗である、又東西動では二・六秒後に五秒週期の一つの緩振動が現はれ、其上に、〇・三二秒、〇・九七秒、一・六秒週期の波が重なつて居り、其平均振幅は〇・七耗である。

主要動——南北動は初めの一・六秒間に大なる振動が現はれた、其第一動七・六耗北、第二動一五・八耗南、第三動六・三耗北、第四動五・〇耗南で、それより振動俄に減少した。次の三秒間に於ける平均振幅は四・五耗であつて、〇・六五秒の週期を有つて居る。爾後一層小となれるも、猶三十秒間は急である、此部分に於ける週期は〇・三二秒、〇・六秒、〇・九五秒、一・六秒等である。

東西動は週期〇・三二秒の小さき振動（第一動〇・八耗東、第二動一・二耗西）で始まり、續て最大動が現はれた、其第一動二三・五耗東、第二動一八・三耗西であつて、週期は一・六秒である。續て現はれた振動は、性質急であるが、振幅は遙に小さく、二・〇耗であつて、一・六秒間に五回往復振動をなして居る。主なる週期は〇・三二秒、〇・九五秒、一・六秒等である。

#### 上下動観測

初期微動——初め〇・八秒間は振動著しく大であつて、初動は二・一耗の下方動を示し、第二動二・〇耗上、第三動一・二五耗下、第四動三・〇耗上である。爾後平均振幅一・二五耗、週期〇・三秒の著しい振動を續けて、主要動となつた。主な週期は〇・三二秒、〇・四八秒、〇・六四秒、〇・九五秒等である。

主要動——初めの〇・九五秒間に、三・〇耗の往復振動が現はれ、次の〇・九五秒間に四ツの等しい振動が現はれた、其振幅は四・〇耗である。次の十五秒間では振動猶急であるけれども、振幅は遙に減少して居る。主なる週期は〇・一二秒、〇・三二秒、〇・六二秒、〇・八秒等である。

鎌倉由比濱観測 Kamakura observation 初期微動繼續時間七・八秒、主要動最強部繼續時間二十秒、總繼續時間約二十分。

#### 水平動観測

初期微動——初めの〇・三秒間に一七四み北へ、一五五み東へ動いたから、初動の方位は北四十一度東となる。南北動では全體を通じて三・九秒の二つの緩振動が現はれ、其上に〇・〇九秒、〇・二七秒、〇・四一秒、〇・六二秒、〇・九秒、一・八秒週期の波が重なつて居り、其平均振幅は七・七耗である。

東西動も亦三・九秒の二つの緩振動が現はれ、其上に〇・〇五秒、〇・二七秒、

〇・六二秒、〇・七二秒、一・二秒週期の波が重なつて居り、其平均週期は七・三秒である。

主要動——主要動の始めに於て、地震計の描針が記録紙を外れた。

#### 上下動観測

上下動は一・三三秒の著しき下方動で始まつて居り、其第二動は二・〇秒上である。次で平均振幅〇・八秒の振動が繼續して主要動となる。主要動に於ては三十五秒間が振動尤も著しく、且つ大である。

週期 初期微動では主に〇・二秒、〇・五秒、一・〇秒、一・五秒週期の波が現はれ、主要動では主に〇・六秒、一・二秒、三・七秒週期の波が能く現はれて居る。

清澄観測 Kiyosumi observation 初期微動繼續時間十秒四、主要動繼續時間五十秒、總繼續時間約二十分。

#### 水平動観測

初期微動——南北動では初めの一・一秒間に二つの往復振動が現はれて居る、其初めのもの五〇み北、三七〇み南で、週期〇・五四秒である、次のものは三五〇み北、六七〇み南である。續て四・三秒週期の二つの緩振動が現はれ、其上に〇・五秒、〇・八秒、一・四秒週期の波が重つて居る。

東西動では初めの〇・一八秒間に一五五み東へ動き、次の二・四八秒間には平均週期〇・六二秒なる四つの振動が現はれて居り、其平均振幅は五二〇みである。次に四・五秒週期の緩振動が現はれ、其上に〇・一八秒、〇・五四秒、一・二秒週期の波が重つて居る。

主要動——主要動は振動大きく、描針が記録紙を外れた。

震原 以上観測の結果を綜合して見ると、震原は東京から南五度東の方約二十秒の距離にあつて、羽田岬邊に當つて居る、震原の深さは五十秒程度のものらしい。又各観測所に於ける初動の方向(東京南微東、鎌倉北東、甲府東、清澄南東、布良南西、柿岡北東、銚子東北東)の分布は、起震力が西から東へ向つて働いたことを思はしめる。

## 第一表

東京帝國大學所屬地震観測所の位置並に東京(本郷)よりの距離

Table I. Co-ordinates of the Seismological Stations and their distances from Tokyo (Hongo).

場 所 Stations	東 經 (λ)	北 緯 (φ)	東京ヨリノ距離 Distance from Tokyo (Hongo)
東 京 (本郷、地震學教室) Tokyo (Hongo)	139° 45' 53''	35° 42' 40''	0 軒
鎌 倉 (由比濱地震観測所) Kamakura (Yuigahama)	139 32 19	35 18 11	50
清 澄 (千葉演習林事務所) Kiyosumi	140 09 02	35 09 22	72
三 崎 (臨海實驗所) Misaki	139 38 16	35 09 40	66
筑 波 (地震研究所筑波支所) Tukuba	140 06 36	36 12 39	65
秩 父 (秩父演習林事務所) Titibu	139 04 54	35 58 56	67
三 鷹 * (東京天文臺) Mitaka	139 32 32	35 40 21	18

\* は近く開始の見込

## 第二表

大正十五年一月より九月まで、東京の四周百六十軒以内の場所に起りし地震回数表 (東京本郷観測)

Table II. Number of Earthquakes originated in the area within the distance of 160 km. from Tokyo (Hongo), during January—September, 1926.

大正十五年 1926	有 感 Felt.	無 感 Unfelt.	無 感 位置未定) Unfelt.	計 Sum.
I	10 回	10 回	6 回	26 回
II	11	10	11	32
III	5	22	3	30
IV	4	30	13	47
V	8	32	3	43
VI	4	21	4	29
VII	7	19	9	35
VIII	6	28	16	50
IX	2	16	2	20
計 Sum	57	188	67	312

第 三 表

大正十五年一月より九月まで、東京の四周百六十軒以内の場所に起りし  
地震観測表 (東京本郷、鎌倉由比濱、清澄観測)

Table III. List of Earthquakes occurred during January—September, 1926 :  
observation at Tokyo, Kamakura and Kiyosumi.

番 號 No.	月 日 Date	東 京 Tokyo						震 度* Inten- sity	鎌 倉 Kamakura				清 澄 Kiyosumi				
		發 震 時 Commencement			繼 續 時 間 Duration		最 大 動 Max. 2a		繼 續 時 間 Duration		最 大 動 Max. 2a		繼 續 時 間 Duration		最 大 動 Max. 2a		
					初 期 微 動 prel. tr.	總 total	南 北 NS		東 西 EW	初 期 微 動 prel. tr.	總 total	南 北 NS	東 西 EW	初 期 微 動 prel. tr.	總 total	南 北 NS	東 西 EW
		h	m	s	s	m	μ		μ	s	m	μ	μ	s	m	μ	μ
1	Jan. 1	21	08	37	7.5	1	4	8		3.1		70	54				
2	3	0	22	45	6.0	1	10	10									
3	7	1	14	00	13.8	1.5	8	7									
4	„	9	54	07	18.3	4	18	29									
5	10	18	03	03	18.2	15	330	433	I								
6	„	18	35	45	19.0	15	125	100	I								
7	12	2	59	14	11.3	3	67	33	I	7.9		120	96				
8	„	21	39	37	19.5	2	10	10									
9	13	6	59	17	5.6	3	72	18	I	5.7		10	10				
10	14	13	08	12	7.3	3	63	38	I								
11	15	8	35	15	15.2	3	13	11									
12	„	22	45	28	5.0	1.5	6	8		5.5		46	22				
13	„	23	43	43	10.7	4	38	33		5.9		140	70				
14	„	23	55	09	10.2	1.7+	13	18		13.2		10	14				
15	„	23	56	52	11.9	10	13	14		13.1		30	20				
16	17	7	58	30	5.5	1.5	18	17	I	6.4		16	10				
17	19	2	51	54	7.2	1	3	4		11.7		24	20				
18	„	8	50	27	11.5	1	8	8									
19	21	15	07	22	7.8	3	79	79	I	13.8		24	20				
20	25	11	23	55	7.5	0.5+	4	4									
21	„	11	24	25	11.9	3	13	13									
22	28	1	36	00	17.1	5	30	30	I					12.2	7	44	46
23	„	16	55	36	12.8	2.5	15	13		12.0		24	36	6.8	1.5	34	44
24	30	17	23	07	5.8	2	19	4	I	5.9		6	4	8.7		4	5
25	31	2	02	42	6.7	1.3	4	5									
26	„	8	15	44	5.8	1.5	18	8	I	5.3		20	12				
27	Feb. 4	17	50	37	7.3	1	41	7									

\* 震度 I=微震 slight. II=弱震(弱キ方) rather weak. III=弱震 weak. IV=強震(弱キ方) rather strong. V=強震 strong. VI=烈震 violent.





69	March	12	3	30	08	6.6	2	18	8		9.2	2	10	20	10.0				
70	„	12	57	47	12.5	3	32	7							12.0	2	50	50	
71	„	14	14	04	9.5	1.5	17	15											
72		13	12	57	58	11.5	1.5	56	20	I	10.7	2	26	25	7.8	1.5	20	24	
73		14	11	59	20	14.3	3	10	27		18.1	3	10	15	13.4	2	6	10	
74		19	22	23	56	13.8	2	4	2										
75		20	0	46	19	8.9	2	4	7										
76	„	20	00	26	10.4	4	203	125		I	15.5	3	60	70					
77		22	3	50	04	4.0	1	49	15										
78	„	15	21	48	8.4	3	200	188		II	4.5	1	5	5					
79		23	5	00	38	10.5	1	8	6										
80	„	10	00	57	8.8	6	50	52		I									
81		25	2	07	33	7.8	2	8	11		10.7	3	8	6					
82	„	11	46	51	10.2		17	17			8.0	2	26	30					
83		26	3	02	35	8.3	2	36			10.7	1.4	12	10					
84	„	12	54	43	13.7	2	32	21			10.7	2	10	5					
85	„	20	54	45	9.9	1.5	10	17			7.8	13	26						
86		27	23	20	50	6.8	1.5	9	13		6.5	1	6	6					
87		28	22	21	07	6.7	2	33	27		5.9	1.2	6	5	7.7	0.5	4	2	
88		29	10	19	13	6.5	2	32	31		12.5	2	10	10	8.2	1	4	4	
89	April	2	20	05	10	7.9	2	35	17		3.0	0.5	32	20					
90		3	6	44	32	9.2	2	46	27		14.0	2	6	6	15.5	1	3	2	
91		4	8	30	22	14.6	2	21	21		18.0	2	14	14	15.4				
92		6	2	5	24	9.5	1.5	15	13										
93	„	17	15	48	7.1	1	6	4											
94		7	19	54	35	5.7	2	58	21		4.9	1	30	36	9.5	1	4	4	
95		8	4	21	26	12.5	3	29	25		12.8	5	20	16	12.1	2	14	12	
96	„	4	55	52	5.4	0.8	4	6											
97	„	15	11	04	8.7	1.5	17	3							8.0	1	10	6	
98		9	0	01	39	11.0	5	65	47		9.5	3	104	110	9.6	2	30	40	
99	„	12	03	56	15.0	3	37	22			16.4	5	10	14	12.2	2.5	26	16	
100		10	5	55	43	6.9	1.5	8	8		5.1	1	5	4	8.4	0.5	2	2	
101		11	15	26	05	8.3	2.5	111	96	I	3.6	1.5	420	180	8.1	3	50	30	
102		12	5	01	12	6.3	2	50	29						9.6	1	4	4	
103	„	5	04	31	7.5	3	27	17											
104	„	17	30	34	7.8	3	18	23			4.4	1	150	120	12.0	1	6	6	
105	April	13	7	32	23	8.2	2	8	6										
106		14	0	22	53	8.3	6	43	28		14.3	2	10	5	12.0	1.5	5	5	
107	„	2	08	36	8.2	6	175	63		II	14.6	3	30	20	13.8	2	10	16	
108	„	2	56	24	5.5	3	60	33			4.4	1.5	60	40					
109	„	3	07	36	7.9	2	28	26			9.8	1.5	8	5	8.3	1	4	5	

110	April 15	20	54	14	13.7	1.5	4	7		12.1	1	10	6					
111	16	5	25	21	7.4	2	14	18		15.7	1	6	2					
112	17	1	15	23	7.9	2	10	9		7.6		10	14					
113	„	8	16	04	8.2	3	10	15		10.8		8	10	15.9	1.2	6	8	
114	„	12	06	42	16.2	10	29	3		18.8		25	40	10.7	5	30	40	
115	„	21	43	18	12.8	2	6	8										
116	18	15	54	33	5.5	10	480	570	III	5.0	10	360	990	10.0	30	270	580	
117	„	16	08	36	5.4	2	21	21		5.0	2	20	20	9.5	1	2	3	
118	„	22	02	07	12.8	2	6	7										
119	19	5	53	13	8.4	2	21	13										
120	22	18	18	26	8.5	2.5	67	31		13.1	1.5	14	6	11.8	2	10	10	
121	24	0	48	20	9.2	1.5	8	7		11.9	1	5	5	9.3	0.5	2	2	
122	„	5	19	10	8.7	1	13	7		10.3	1	5	6					
123	„	5	20	16	7.0	1	54	4										
124	„	19	56	05	11.2	2	6	13										
125	„	23	20	50	11.2	2	13	10										
126	26	20	03	30	9.4	1.2	15	17										
127	„	20	29	23	8.3	1.2	11	9										
128	27	7	58	49	8.6	1	7	9										
129	„	15	58	40	7.1	1	6	3										
130	„	16	28	52	9.8	0.4+	8	5		6.0		2	2	7.5	0.5	2	2	
131	„	16	29	17	9.2	1	46	18		5.7	1	8	8	6.0		2	2	
132	„	23	17	24	8.6	5	212	386	III	9.7	5	200	110	10.0	4	50	104	
133	23	21	29	03	13.8	1	8	5		9.4	1	3	2					
134	„	23	21	48	9.5	1.5	23	13		6.4	2	4	4					
135	29	19	38	12	8.7	1.2	8	8		12.0	1	4	4					
136	May 1	2	36	18	8.6	6	650	460	III	10.9	6	166	172	9.8	3	170	175	
137	3	5	24	24	12.6	1.3	6	8		9.5	0.5	2	2					
138	„	12	29	04	12.6	1.5	17	14		7.8	1	4	4	7.3	1	2	2	
139	4	1	26	20	9.8	1.5	7	5		9.4	1.5	18	14	7.5	1	10	15	
140	5	18	51	47	10.5	1.7	4	5		8.1	1	4	4	5.6	1	5	10	
141	6	6	01	01	13.7	1	3	3										
142	„	18	17	43	9.6	2	17	22		15.3	2	20	22	10.0	2	6	8	
143	7	5	45	08	16.1	4	10	12		10.5	4	6	8	14.9	6.5	6	6	
144	9	1	15	09	9.1	1	6	5										
145	„	4	54	45	8.7	1	6	5										
146	„	13	29	45	13.1	5	25	17		14.2	3	20		11.2	4	18	16	
147	„	14	09	49	17.8	10	43	34		15.1	3	60		11.9	7	40	40	
148	10	10	19	44	11.1	1	21	20		7.5	1	26	25	5.4	0.5	2		
149	„	17	10	00	7.8	1.5	14	12						9.0	1	4	2	
150	„	22	26	01	7.9	2.5	20	24		3.1	1.5	170	265	9.7	1.5	4	3	

151	May 11	2	47	24	11.7	3	20	26		16.8	2.5	20	16	12.1	2	8	18
152	„	7	21	37	7.8	3	24	20		6.4	3.5	65	115	10.8	2.5	6	5
153	12	6	41	07	5.9	2.5	124	96	I	3.3	1	20		7.2	2	12	6
154	„	6	48	24	5.7	2	58							6.6	0.5	2	2
155	„	11	34	30	11.4	1.5	11	8									
156	„	16	43	48	9.6	1.2	7	11									
157	13	19	37	18	18.9	5	9	17						13.1	3	8	8
158	14	22	45	57	8.7	1	3	8						4.4	2	16	6
159	16	4	51	47	5.5	1	4	8		7.5	1	15	10				
160	„	16	24	38	8.7	1.2	8	3									
161	17	4	29	45	7.3	6	67	48	I					15.3	3	8	4
162	18	2	09	18	6.9	1.5	5	29		8.5	0.5	2	2				
163	„	10	24	12	20.4	11	92	58		21.2	10	80	60	18.4	10	70	70
164	19	1	59	51	7.9	4	285	275	III	14.9	7	40	54	15.0	7	40	52
165	20	12	32	59	13.5	2	29	19						13.9	1	2	2
166	„	18	34	55	9.6	2	6	5		10.0	1	30		7.5	2.5	16	8
167	„	19	19	10	13.7	2	15	8						10.1	0.5	2	2
168	„	20	48	15	7.2	5	180	180	II	10.0	4	60		13.2	4	10	20
169	„	23	59	37	9.3	1	6	5		6.0	0.5	7		6.9	1	2	2
170	21	4	11	18	6.4	2	25	28	I	7.4	1	40		10.0	0.7	4	4
171	23	23	34	37	8.4	2.5	58	52	I	13.5	2	6	8	13.8	1.5	5	4
172	24	0	23	17	7.5	1.7	14	9		5.4	1.5	16	46	8.5	0.5	2	2
173	„	10	10	32	17.1	1.2+	32	54		13.2	6	112	225	13.7	10	10	20
174	„	15	00	54	16.6	3	63	6		12.6	3	34	16	15	4	6	5
175	25	1	43	43	8.9	1	4	4		9.2	0.7	8	4				
176	„	2	41	58	8.1	1	4	4		7.9	0.5	2	2				
177	26	7	23	28	8.2	2	20	16		12.9	2	6	5	11.2	2	10	10
178	28	7	10	40	14.5	3	14	10		18.4	2	6	6	18.4	1	3	
179	June 7	0	48	47	9.8	1.2	8	6									
180	9	10	27	15	4.1	2	66	60	I					9.7	1	4	3
181	10	13	01	01	14.4	2	8	7		7.7	2	6	8	11.2	1.2	4	2
182	14	9	16	13	7.4	3	46	60	I								
183	16	10	13	24	7.5	1	33	15									
184	„	18	44	48	7.9	1.5	18	12		17.7	1.5	4	4				
185	18	16	49	45	6.6	1	17	6		6.6	3	50	72				
186	„	23	11	07	7.7	2	61	25		8.3	1	30	30	10.2	1.3	2	4
187	20	16	01	29	7.1	1.5	18	15		4.6	0.8	30		8.6	1	5	6
188	„	17	58	52	9.8	1	8	13						6.8	1	2	2
189	„	23	16	37	8.4	1	3	3									
190	21	2	12	20	6.2	1	3	4									
191	„	6	03	35	9.1	1	3	3		14.8	0.5	2	2				



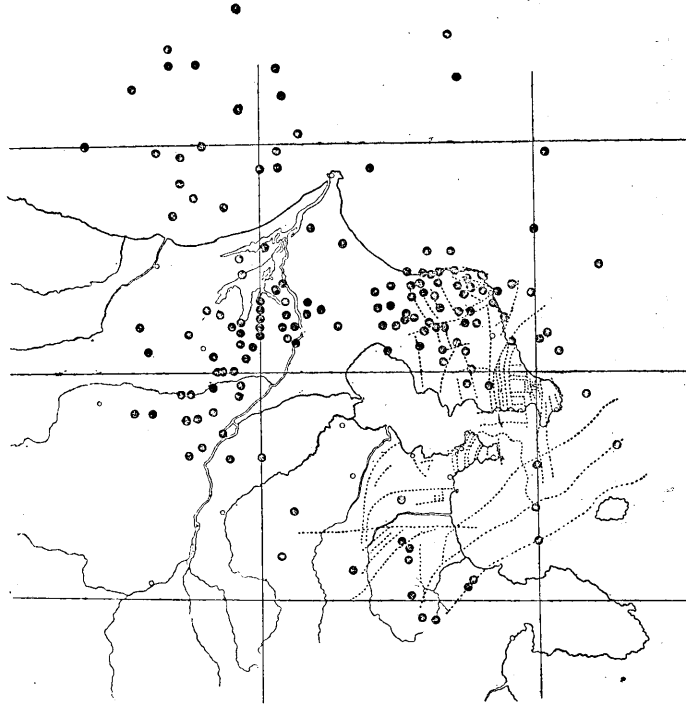


274	Aug. 12	1	15	34	6.9	1.3	30	17						8.0	0.5	4	3
275	„	17	03	57	6.9	0.8	10	17		7.7	0.5		4				
276	„	18	03	55	19.6	5	12	13		15.6	2		4				
277	13	13	19	01	14.0	6	85	61	I	10.7	5	124	50	15.2	2.5	10	10
278	14	1	11	57	10.2	5	67	63	I					10.7	2	14	12
279	15	18	43	58	9.3	4	33	75		10.4	4	20	20	10.8	2	10	24
280	16	14	34	53	17.0	2	4	7						7.4	1	4	4
281	17	3	29	22	9.2	4	38	28		8.3	2	40	30	8.7	1	2	2
282	„	5	03	19	12.5	2.5	18	29		7.5	2	20	32				
283	„	22	05	12	10.4	3	10	21		6.3	2	20	16				
284	19	2	17	09	5.4	1.5	75	25		4.9	2	20	12	10.0	0.8	4	4
285	„	2	57	58	18.2	3	19	18		5.4	2	5	5	14.0	1	4	4
286	20	8	03	28	11.2	2.5	7	28		13.7	2.5	40	15				
287	21	13	11	40	10.2	1.5	6	12									
288	„	15	51	37	9.5	2	23	23						14.8	1	4	4
289	27	4	03	28	10.3	2	12	12		13.7	2	6	6				
290	„	4	44	28	7.0	1	9	17		7.4	1.2	5	5				
291	28	12	44	30	13.0	3	13	33		17.0	2.5	3	3	17.3	1	4	4
292	„	19	24	28	5.9	2	6	8		3.7	2	186	64	9.5	1	2	2
293	Sept. 1	18	15	46	9.3	1.5	6	21		11.0	1	10	6	5.2	1	34	54
294	3	22	39	40	10.2	1	13			10.0	1	4	6	9.5	1	8	4
295	4	2	55	53	8.8	1	10										
296	7	22	38	07	8.4	2	80	50	I	10.0	3.5	560	540	11.5	1.5	12	25
297	9	3	11	43	8.7	2	10	12		11.8	1	5	4				
298	11	7	31	56	10.1	1.5	17	19		15.2	1	2	2	12.4	1	4	3
299	„	12	07	45	13.2	1	13	21						16.4	0.7	2	2
300	14	7	01	18	9.0	3	36	45		12.6	4	24	20	6.7	2	30	44
301	15	16	24	22	16.9	2.5	44	46		14.5	2	24	26	12.4	2	8	8
302	17	2	45	44	6.7	1.5	17	31									
303	„	5	49	16	11.0	5	80	136	I					17.0	3	8	12
304	21	15	08	15	16.8	2	21	21		17.8	1	12	4				
305	„	18	46	59	10.2	1	4	4			0.5	4	4				
306	22	0	59	08	13.2	2	6	9		14.5	1	5	4	11.4	1.3	4	4
307	23	6	37	50	8.2	2	14	10						16.1	1	4	4
308	„	22	26	34	15.4	3	6	6		14.6	2	4	6	9.5	1.2	4	4
309	„	23	49	51	7.1	2	15	16		12.4	1	12	8				
310	24	0	49	20	9.6	2	21	26		12.1	1	4	4				
311	„	21	02	38	15.8	3	7	4									
312	28	7	35	40	12.0	2.5	8	7		14.1	2	8	8	12.0	1.5	2	2

第一圖

大正三年より同十年に至る東京の四周百六十軒以内の場所に起りし有感地震の分布 (大森博士調査)

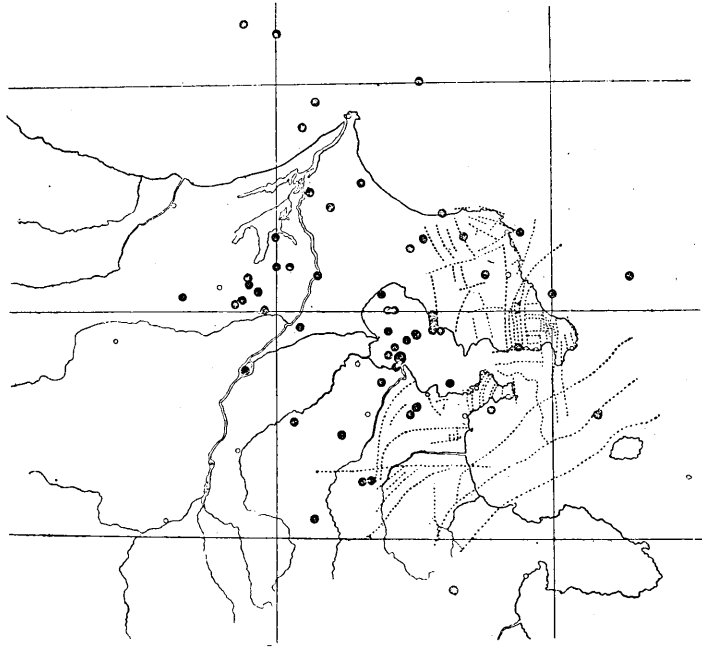
Fig. 1. Map showing the distribution of the epicentres of earthquakes felt in Tokyo during 1914-1921. (After Prof. Omori.)



第二圖

大正十五年一月より九月に至る東京の四周百六十軒以内の場所に起りし有感地震の分布

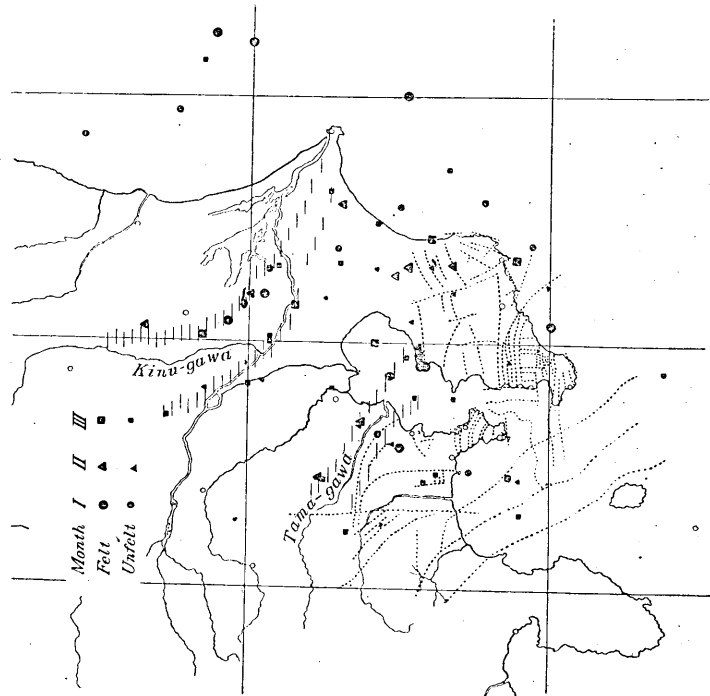
Fig. 2. Map showing the distribution of the epicentres of felt shocks. (Jan.—Sept., 1926)



第四圖

大正十五年一月より同三月に至る東京の四周百六十料以内の場所に取りし地震の分布

Fig. 4. Map showing the monthly distribution of the epicentres of shocks. (Jan.—March, 1926).

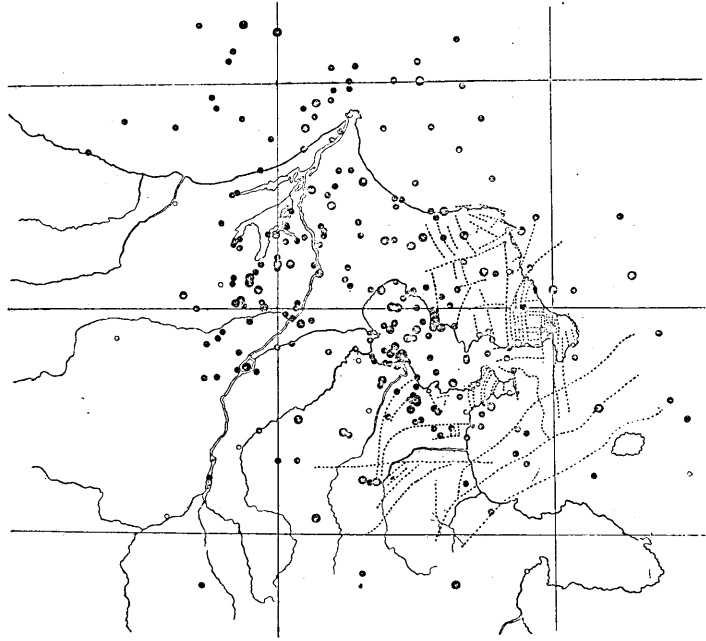


第三圖

大正十五年一月より同九月に至る東京の四周百六十料以内の場所に取りし地震の分布

(●……有感 felt, ○……無感 unfelt)

Fig. 3. Map showing the distribution of the epicentres of felt and unfelt shocks. (Jan.—Sept. 1926.)

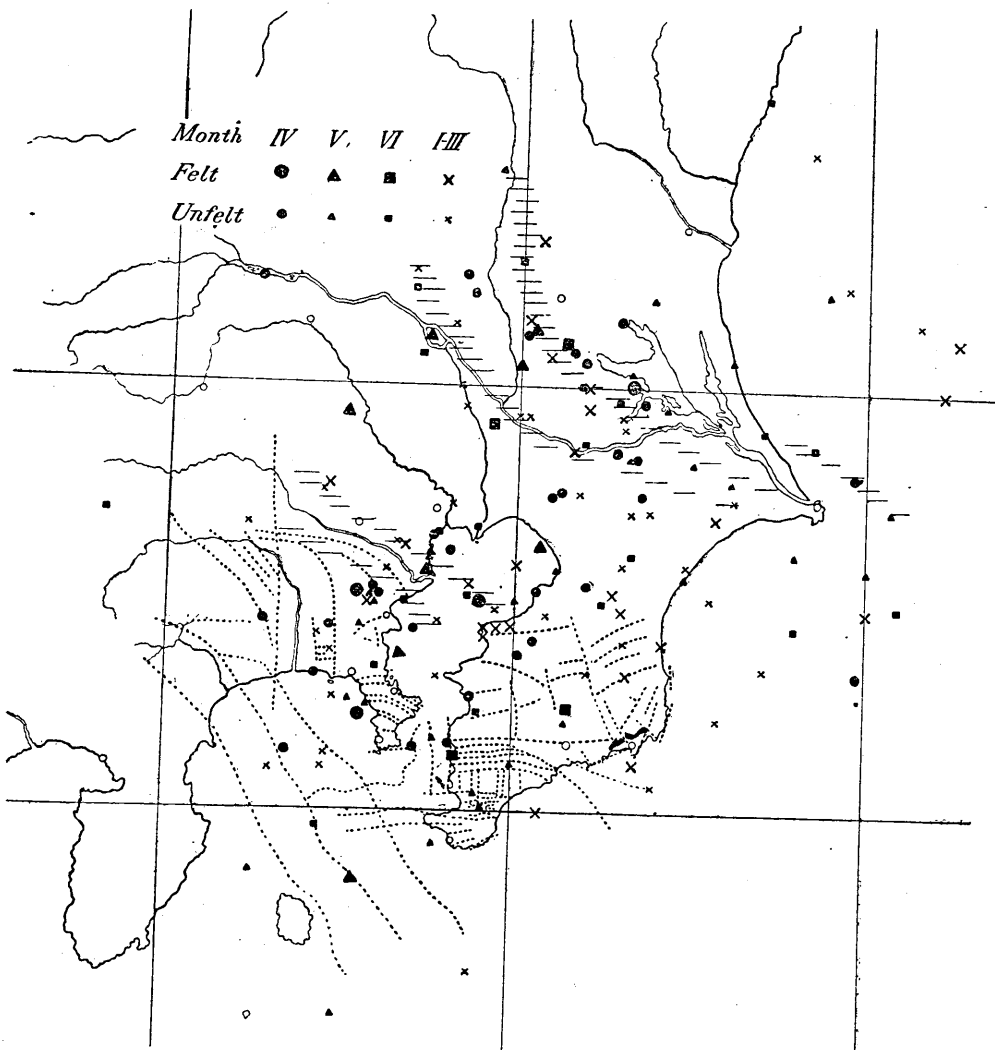




第五圖

大正十五年四月より六月に至る東京の四周百六十軒以内の場所  
に起りし地震の分布

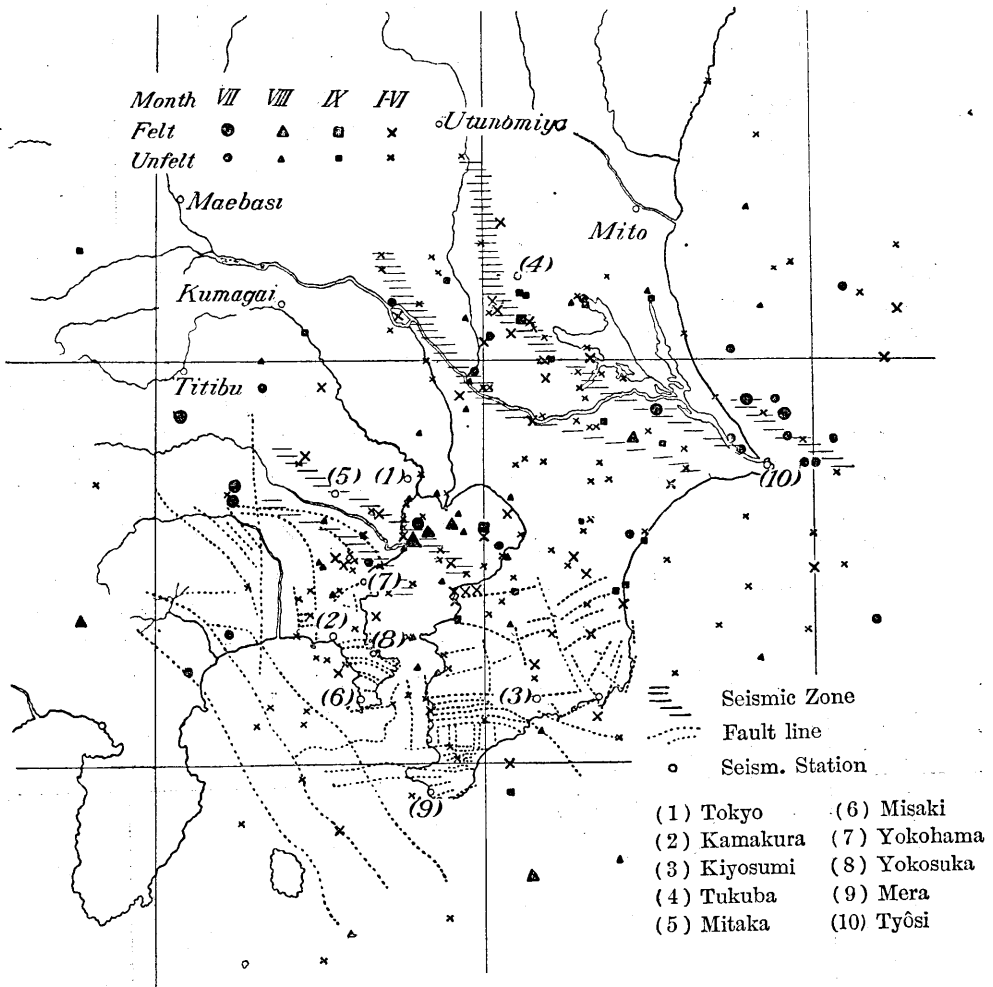
Fig. 5. Map showing the monthly distribution of shocks  
(April—June, 1926.)



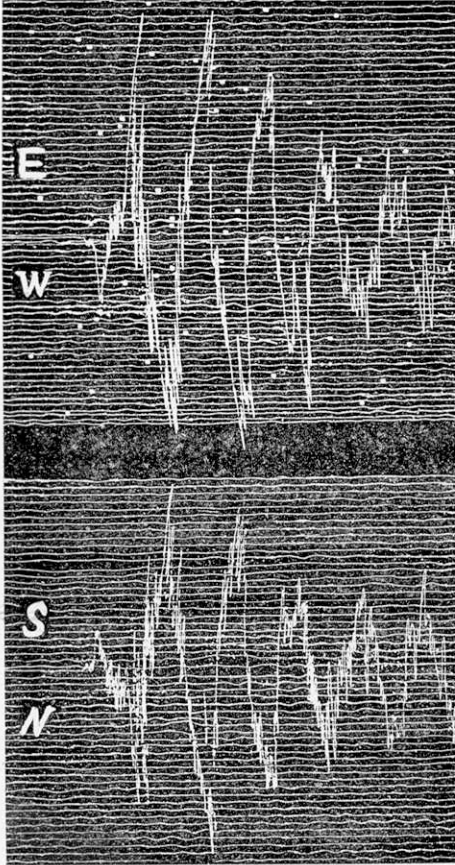
第六圖

大正十五年七月より九月に至る東京の四周百六十軒以内の場所  
に起りし地震の分布

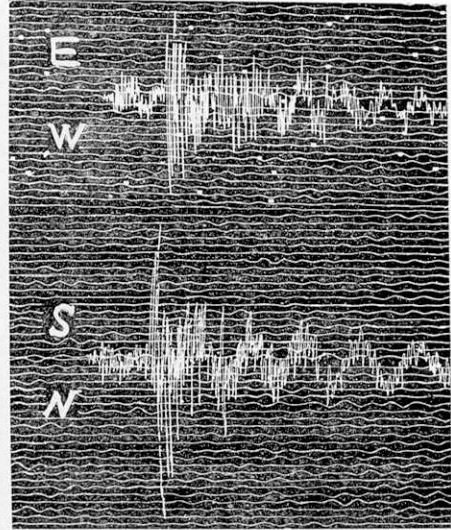
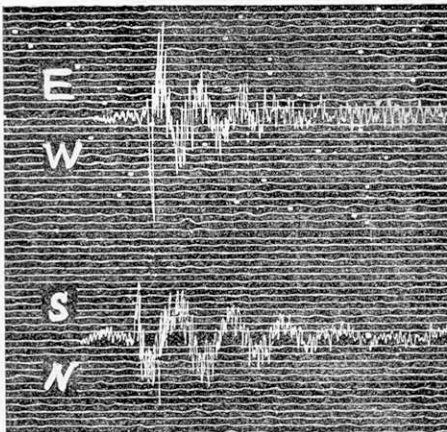
Fig. 6. Map showing the monthly distribution of shocks.  
(July—Sept., 1926).



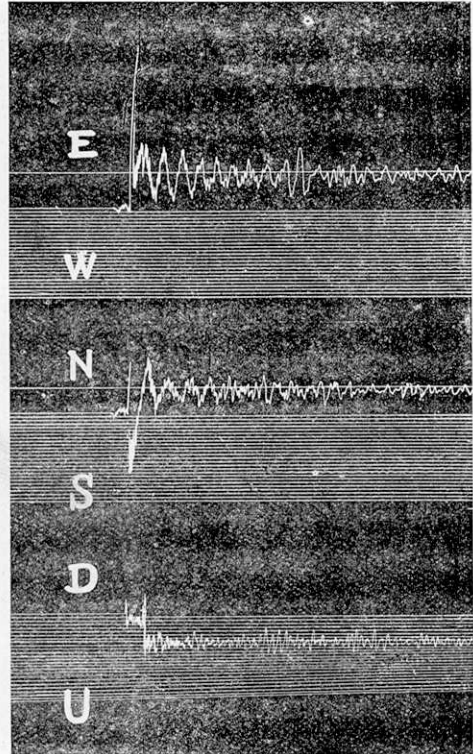
第七圖 Fig. 7  $\left\{ \begin{array}{l} V=50, \\ T=8s, \\ 1 \text{ min.} = 68.5 \text{ mm.} \end{array} \right.$



第八圖 Fig. 8  $\left\{ \begin{array}{l} V=50, \\ T=8s, \\ 1 \text{ min.} = 57.8 \text{ mm.} \end{array} \right.$



第九圖 Fig. 9  $\left\{ \begin{array}{l} V=50, \\ T=8s, \\ 1 \text{ min.} = 60.3 \text{ mm.} \end{array} \right.$



第十圖 Fig. 10  $\left\{ \begin{array}{l} V=1, \\ T(h)=10s, T(v)=5s, \\ 1 \text{ min.} = 18.6 \text{ mm.} \end{array} \right.$